

米国農務省が発表した BSE サーベイランスに係る報告書に対する

専門委員等からのコメント(未定稿)

本年7月に米国農務省から発表された、「BSEサーベイランスに係る報告書」に対し、これまでに専門委員等から事務局に寄せられた主なコメントは次のとおり。

1. BSE 有病率の推定について

- 「米国における BSE 有病率は 100 万頭分の 1 頭以下である」とする推定結果は、日本が行った米国産牛肉等のリスク評価において、サーベイランスデータから推定した有病率 100 万頭あたり 1 頭程度と大きく異なるものではないと思われる。
- BSurvE モデルや BBC モデルの構造自体に問題があるとは思わない。
- 有病率の推定に用いている BSurvE モデルは、まだ OIE で議論中であり、評価が定まっていないことに留意する必要があるのではないかと。また、OIE の関係者から機会があれば意見を聞いてみてはどうか。
- 検査結果を分析するためには、検査対象牛の母集団の規模(頭数)を明確にする必要があるのではないかと。
- 検査対象牛の年齢推定方法、カテゴリの分類方法に不明確な点がある可能性がある。
- 過去7年間のサーベイランスデータを WB の導入前後で分けて、検出感度に差を設けて分析し直すことは、正確な分析をするためには有効であると思われる。
- 採取したサンプルが、BSE 検査に供される前に要した時間や冷蔵期間等、サンプルの取扱方法が、検査感度に与える影響について検討する必要があると思われる。
- 一次検査を含む検査法自体の品質管理が不十分であったことから、BSE 感染牛が見逃されていた可能性は否定できないのではないかと。

2. 今後のサーベイランスについて

- 今回公表されたサーベイランス計画は、サンプル数そのものは少なくなるが、高リスク牛により重点を置いたサーベイランスであり、100万頭に1頭のBSE感染牛を発見する目的からすれば、公表されたサーベイランス計画自体が問題であるとは言えないのではないか。
- サーベイランスを均一に縮小するのではなく、例えば、カナダのアルバータ州と乳牛の取引の多い米国の地域や酪農地帯等、高リスクと思われる地域からのサンプリング数や、メスの廃用牛のサンプル数を増やす方が効率的ではないかと考える。
- 農場での適正なサンプリングを保証するため、開業獣医師らとの協力体制の整備など、具体的な取り組み方法が示されると良いと思う。
- 米国におけるBSE汚染状況を正確に把握し、適切な管理対応を行うためには、健康な牛を含む十分なサーベイランスの拡大や継続が必要であり、今後、サーベイランスの変更により得られるデータの量、質が低下するとすれば問題が生じる可能性がある。